

児童会長が選挙公約を達成 「有名人を呼んでみせる」

11月12日、白人小学校で射撃でアテネ、ロンドンの両オリンピックに出場した小西ゆかり選手を迎えた交流会が開催され、全校児童が射撃の面白さを体感しました。

▼射撃を体験する児童たち



▼小西ゆかり選手



きっかけは選挙公約

交流会を企画した白人小学校児童会長の小野田愛良さんは、前期児童会長を決める選挙演説で「私が児童会長になった暁には、必ず有名人を呼んでみせます」との公約を掲げ、見事に選挙を勝ち取りました。



▲生徒会長の小野田愛良さん

諦めないことが大事

小野田さんはオリンピック選手を呼びたいと考えていたが、日程が合わず呼ぶことができませんでした。後任に引き継ぐと諦めていましたがこれは私の公約」と思い直し、任期も立候補しました。「公約を果たさせてほしい」と演説し再選。これを知った幕内スポーツクラブの関係者が小西選手に内容を伝え、交流会が実現しました。

児童たちは実弾の代わりにレーザー光線での狙撃を体験しました。ターゲットを真剣な表情で狙い、命中すると歓声が上がっていました。最後に小西選手は「初めての大会でビリだった私が、はオリンピックに出場している。上手いかななくても、諦めないことが大切」と児童たちに語り掛けていました。

白人小学校 今昔物語



▲旧白人小学校



▲現在の白人小学校

明治30年に私立白人教育所が開設されてから20数年が経過した頃、当時の青年グループの一つであった「白人共和倶楽部」のメンバーは、クラブ費用を充てて白人小学校に校旗を贈ることを決めました。そこで、この当時の教諭である岡田浅次郎さんと相談し、左図のように決めました。

この校章は、白人の開拓と未来をえがき、白人の里を白とし、幾多の困難に打ち勝った先人のたくましい開拓精神と白人の教育の姿を雪の結晶で表現したものです。

大正9年、帯広の藤丸百貨店に校旗を注文したところ、わざわざ京都に注文をして作ることで、翌年2月に完成しました。校旗の価格は、70円余りで当時としては相当高価なものでした。校旗の代金は白人共和倶楽部が3年計画で、時切りや共同耕作、道路の砂利敷等の勤労作業によって得た費用をあてました。学校に贈る際、校旗を立てる三脚などが無いこと、勤労作業により、代金12円を工面しました。



▲白人小の校章

白人小学校の沿革

- 1897年(明治30年) 私立白人教育所の開設
- 1901年(明治34年) 白人尋常小学校の指定
- 1946年(昭和21年) 開校50周年記念式典を挙げる
- 1947年(昭和22年) 白人小学校と名称を変更
- 1978年(昭和53年) 児童数の増加に伴い、札内南小学校が分離
- 1981年(昭和56年) 児童数の増加と通学の安全性確保に伴い、札内北小学校が分離
- 1982年(昭和57年) 白人小学校新校舎(現校舎)の落成式を実施
- 1997年(平成9年) 開校100周年記念式典を挙げる

学校概要

学校長 山田 洋
 教員数 26人
 学級数 17学級
 (うち支援学級 5学級)
 児童数 290人

※概要は平成24年5月1日現在